

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年 2月 21日

事業所名 障がい者就労支援センター 愛・あいネット

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		可動式の間仕切りの使用	人数や活動内容に応じて、部屋のスペースを調整している。
	2	職員の配置数は適切である	○			周知しているが、配置数の基準など保護者様へは分かりにくい記述が多かった。今後はHPIにて掲載を検討。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			サービス提供場所が2階だが、車いすトイレは1階にあるなど、車椅子を使用する者についての移動の動線が、困難だと感じる。(現在該当児童なし)
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○		現在の勤務形態上、指導職員全員が揃って参加できていない。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			昨年のアンケート結果を踏まえた改善が全て完了はしていない。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			HP上での公開の実施。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価はおこなっていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			研修に参加する職員の偏りがある。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			サービス提供や送迎のなかで、子どもたちの様子を分析している。保護者に関しては実際に密に話をする機会が少ないので足りないところは定期的な面談の実施や連絡日誌を通じての聞き取りをおこなっている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		導入を検討しているが、現時点で導入にはいたっていない。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			チーム立案ではあるが、全職員が揃っておこなっていない。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			基本的には曜日別で活動を内容を変える体制をとっている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		長期休暇中は、長時間・長期間でしか実施できない支援内容を設定し課題解決に向けて活動しているが、休日については個別で課題設定はしていない。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			子供たち、個々の課題について集団活動で支援活動をおこなうものが殆どであり、個別活動について実施回数が少ない。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○		当日の担当職員同士での申し合わせ程度の打ち合わせはしている。実際はもう少し時間を取って情報の共有ができれば良いと思う。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		支援終了後にミーティングをおこなう時間が確保できない。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		チェック項目化し、職員負担を軽減	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			少なくとも6ヶ月に1回は支援計画の見直しをおこなっている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			今年度は地域交流の機会が少なかった。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者及び担当指導員の参画。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校行事や下校時間は事前に計画表にて情報をいただいている。学校での関係者会議への出席、トラブル発生時の連絡体制は整っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	現在まで医療的ケアが必要な子どもの受け入れ事例がない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	現在、利用の中心学年が高等部の生徒ということもあり、就学前の園、事業所との情報共有の事例がない。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		障害福祉サービス事業所及び、おおすみ障がい者就業・生活支援センターなど、必要に応じて情報提供をおこなう体制は整っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	当該センターなどの研修に参加したことはない。今後、募集などあれば参加を検討していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		近隣の学童クラブとの交流実績がある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	積極的参加とはいえない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		対面での情報共有機会は少ない。連絡帳経由での情報共有や別途インターネットサービスを使用した連絡手段を検討中。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	保護者交流の機会の充実、ペアレントトレーニングについての支援スキル習得のための研修参加を検討する
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明している。契約後も不明な点があれば、都度説明させていただくことも周知している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		事業所単体での問題解決にこだわらず、必要に応じて各機関への情報提供や、専門機関の紹介をしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	現在、保護者会の定期開催はないが、開催の機会を増やしていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情については、迅速に現状の把握と聞き取りをおこなう等必要な体制は整えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		会報等の発行はしていない。行事予定やイベントの参加の様子などは連絡帳経由。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報に記載されている書類等は鍵付きの事務所に保管している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		るび付きの資料の作成や、連絡事項についても分かりやすい語句で作っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		地域のイベントに参加するなどしている。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		保護者への周知が不十分であった。冊子の配布などを検討している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回の避難訓練の実施。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止・身体拘束に関する研修の実施。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		該当者はいないが、必要に応じて説明・了承を得た上での計画への記載をすることとしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	該当者なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	今後の研修内での意見交換で作成予定。